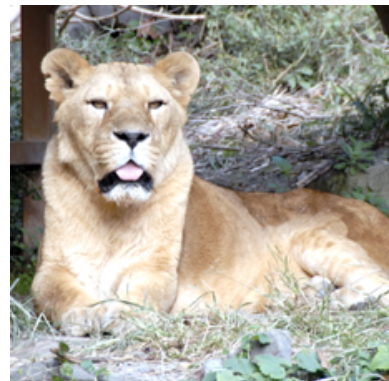


# FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
E-mail club1972@fujieda-rotary.org

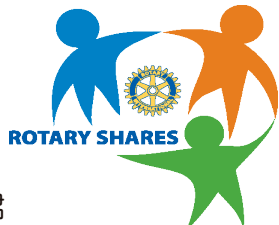


【日本平動物園にて】

写真提供：青島克郎君

会長：村松 英昭 副会長：青島 克郎 幹事：青島 彰 副幹事：仲田 廣志

## 第1739回



<ソング> 我等の生業  
<ソングリーダー> 杉浦 良一君

2007-2008年度 RIテーマ  
ロータリーは  
分かちあいの心  
ウィルアリッドJ.ウィルキンソン

### ■ 会長報告 村松 英昭君

先日11月8日のクラブゴルフ同好会コンペにて優勝いたしました。ハンディに恵まれ、優勝しました。木曜日だったら会長は出席できませんよねと青島克郎君に誘われ久しぶりに行ったゴルフでした。青島克郎君に感謝いたします。

当日、GSEメンバー団長のタイのマノ氏と一緒にラウンドしました。私の子どものクラブを一式お貸ししてのラウンドとなりました。タイのバンコクで月に3回程ラウンドしているとのことで、人のクラブでも10回で回って来られました。ラウンド中にいろいろな話を聞かせてもらいました。今、タイのバンコクでは、日本食レストランが大盛況で、週末は待たなければ食べられない程です。6万人の日本人がいますが、日本人ばかりでなく、タイ人も食べに行きます。もし、お店を出すのであるならば今がチャンスです、どうですかと言われました。

マノ氏はタイで大学卒業後日本の同志社大学で学び、その後浅草で衣料品と家具の貿易会社を設立し、18年間程日本で暮らし商売を行っていました。20年前にタイに戻ったとのことでした。彼の息子さん2人とも日本で生まれその後タイの大学卒業後、長男は早稲田大学で、次男は横浜国大で学び、長男はマノ氏の後を継ぎ不動産と貿易を行っており、日本、バンコク、シンガポール、台湾を飛び回っており、日本にも年数回来ているとのことでした。なぜ息子さんたちに日本の大学で学ぶことを勧めたのですかとお聞きしましたら、

タイと日本の貿易、合併会社を設立する際、日本の大学を出ていると日本の企業との話し合いにおいて他者よりも優位に話しができるので、その結果日本の明治製菓とのOEMの話がまとまりました。また東鳩製菓との話を進めていると話されました。息子は私がやってきた衣料品、家具関連はやりたがらず、お菓子等の食料品関係に就きました。次はタイのバンコクでゴルフをやりたいと言って別れました。

### 幹事報告 青島 彰君

- 地区大会お礼が地区ガバナーより届いています。
- 出席記録の改正が地区ガバナー事務所より届いています。

### 出席報告 鈴木 廣利君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
22 / 35 62.86%	24 / 35 68.57%

- (1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)
- 後藤君 杉山君 春原君 成瀬君  
松葉隆君 水野君 村松徳君 鈴木晶君  
飯塚君 板倉君 鈴木舜君 仲田晃君 望月志君

### ビジター

殿村 元二郎君(藤枝南)

### スマイルBOX 山田 昭雄君

- 誕生日記念ありがとうございます。私も65才年金をいただく年になりました。よろしく願い致します。

夫人誕生日記念ありがとうございました。

結婚祝いありがとうございました。結婚41年目になります。夫婦健康で元気でやっております。今後もよろしくお願い致します。 村松 宏一君

- 11月8日(木)ゴルフ同好会コンペにてハンディにめぐまれ、優勝いたしました。今後ともよろしくお祈いします。 村松 英昭君

- 皆様に大変ご心配をお掛け致しましたが、お陰様で例会出席ができるまでになりました。ありがとうございました。 栗原 毅君

- 昨日13日父のお別れの会には多数の藤枝RCの会員の方に参列いただき有難うございました。今後もよろしくご指導下さい。

藤枝南RC 朝比奈 潔君

スマイル累計額 400,000円

### ロータリー財団奨学生卓話

澤口さやか様



11月4日に開催された国際親善フォーラムの報告をしたいと思います。

国際ロータリーにはいくつもの委員会があります。それらの委員会は各々の仕方で国際奉仕活動に従事していて、互いに独立しています。国際親善フォーラムは委員会代表者やスタッフが一同に会して情報交換や意見交換を行う年に一度の機会。国際ロータリーの活動が多岐に渡ることを理解し、全ての委員会は皆一つの最終的な目標(世界平和)を目指していることを意識するのが今フォーラムの狙いです。

参加委員会は7つ：青少年のボランティア活動を支援するインターアクト、地域に根差した青年育成をするローターアクト、海外との青少年交換、GSE、財団国際親善奨学生、山静学友会、日本に來た留学生が対象の米山記念奨学生。代表7名

とコーディネーターによるシンポジウムの形で活発に意見が交わされました。

最も印象に残った出来事として、他国の習慣や文化、思想の違いに遭遇したこと、ボランティアを通じて心からの感謝に触れたこと等が挙げられました。国際的活動では“違い”に出会う機会が多々あるが、“違い”は尊重すべき豊かなものであると確認。さらに歌によって異文化を持つ人達と感動を分け合ったエピソードが語られ、交流により様々な人が一つになれる希望が示唆されました。

国際親善とは、「国際親善」という名目を取り払い、「私とあなた」が向き合い互いの違いから学ぶ場面。国際親善活動によって、“違い”の上に友情の輪を築いていく決意を確認し、会場約100人による『ふるさと』の大合唱で今フォーラムは大成功のうちに終了しました。

(担当/北村)